



ごあいさつ

福島県小学校長会会長 小 野 真 教

このたび、福島県小学校長会会長という重責を担うこととなりました小野真教です。伝統ある本会の会長を務めるにあたり、身の引き締まる思いであると同時に、本県の小学校教育の発展のため、微力ながら尽力させていただく所存です。

福島県小学校長会は、大正15年4月の結成以来、長きにわたり本県小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を重ね、多大な成果を上げてこられました。100年の歴史と伝統、そして、諸先輩方の小学校教育の充実に対する熱い思いを受け継ぎ、今日に至ります。

さて、本校長会会則第3条（目的）には、「本会は、会員の職能の向上と小学校教育の充実刷新を図り、本県教育の進展に寄与することを目的とする」とあります。目的達成のためには、県内の小学校長が自ら研鑽を積み、互いに切磋琢磨し合い、力を合わせていくことが必要です。それが、各校の学校経営の充実と本県小学校教育の振興を促し、ひいては子ども一人一人の望ましい成長の実現を果たすことにつながると考えます。

特に、東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故に関しましては、「学校は復興の最大の拠点」の合言葉の下、校長先生方がリーダーシップを発揮して、教育環境・機能の回復に取り組んでこられました。震災から14年が経ちますが、双葉町は、未だに避難先での教育活動を余儀なくされている状況です。また、小学生は全員震災後に生まれた子どもたちとなり、教職員も若い世代が多くなり、震災の記憶と教訓の伝承が課題となっています。引き続き校長会といたしましては、被災地校への支援及び風評被害、風化の防止に努めてまいります。

社会の急激な変化に直面する今、「変革」の波は学校現場にも押し寄せ、対応を求められています。学び方の変革、いじめや不登校など生徒指導上の諸問題、特別な支援を要する児童への対応、急速に進むICT化、大量退職・採用に伴う教職員の構成変化、教職員の人材育成・確保、管理職を目指す人材の発掘、働き方改革の更なる推進、定年延長など、多岐にわたる課題が山積しております。

これらの課題に対応するため、私たち校長は、国の動向を踏まえ、各学校の実情に応じて、創意工夫を凝らした学校経営を行う必要があります。また、校長は、教職員のリーダーとして、その資質向上を支援し、チーム学校として組織力を高める必要があります。さらに、校長は、自らも学び続ける姿勢を持ち、常に最新の教育情報を収集し、学校経営に生かすことが重要です。

このような校長の職務を果たすためには、校長会の連携が不可欠です。校長会は、会員相互の情報交換や研修の機会を提供し、校長の資質向上を支援するとともに、県教育委員会との連携を密にし、本県の小学校教育の発展に貢献する必要があります。

会長として、会員の皆様の声を真摯に受け止め、校長会がより一層、会員の皆様にとって有益な組織となるよう、尽力いたします。そして、本県の全ての子どもたちが、未来を切り拓く力を育むことができるよう、全力で取り組んでまいります。

今年度は、福島県小学校長会が100周年を迎え、記念式典が開催されます。さらには、令和9年度に「全連小福島大会」が開かれます。この大きな2つの行事に向けて、計画・準備を着実に進めてまいります。

会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。